

病に罹り
余命幾ばくも
無い私は

藁にも縋る
思いにて

この地に住まう
妖の元へ向かった

何故なら
其の者には――

ああ
確かに治せるのう

わしの「尿」には
命を延ばす
効能がある故な

飲みたいか?
ホレホレ

――じゃが
タダではやらん

一つ
条件がある

条件?
わかった!

内容くらい
聞け阿呆!

半刻じゃ

これを飲んだ後
半刻
貴様の時間を頂く

命の危険はない
らしい

これ
がつく
でない重め

こぼすなよ

ならば
背に腹は
代えられぬ

飲まなければ
私は死ぬのだ

その間
わしの命令には
絶対服従……

それで構わぬなら
存分に飲むがよい

丁度
出そうじゃし

直が一番
効能が高い

ほれ
すぐに身体に
変化が出るぞ

!







